



件名：トランスジェンダー学生 支援指導書

このガイダンスは、トランスジェンダーの生徒と学校コミュニティに適切なサポートを提供するために対処する必要がある一般的な懸念事項に関する支援を提供します。これらのガイドラインは、学校に基本的な方向性を提供することを目的としています。発生するすべての状況をカバーするわけではありません。目的は、学校がすべての生徒に安全で育成的な学習環境を作成するための即席の指導書を提供し、学校関係者に状況が発生したときに対処するためのベストプラクティスを認識させることです。

トランスジェンダーの学生のニーズは、学生の状況に応じて非常に個別化されている可能性があります。各生徒のニーズは、ケースバイケースで評価する必要があります。これは、生徒と、必要に応じて生徒の両親または保護者と面会することで達成できます。学校のスタッフは、生徒が自らの性自認を決定し、表現する際に率先して行動できるようにし、性自認と表現に関する生徒のプライバシーと秘密保持の権利に留意する必要があります。

重要な用語の定義

「出生時割り当て性別」とは、人が生まれたときに割り当てられた性別、通常は「男性」または「女性」を意味します。

「ジェンダー」とは、個人を女性的、男性的、またはその他として分類する社会の期待に影響される、一連の社会的、心理的、および感情的な特性を意味します。

「ジェンダー表現」とは、多くの場合、行動、服装、髪型、活動、声、またはマニエリズムを通じて、ある人が他の人にジェンダーを表現または表現する方法を意味します。

「ジェンダー・アイデンティティ（性自認）」とは、そのジェンダー関連のアイデンティティが、その人の生理機能または出生時に割り当てられた性別と異なるかどうかにかかわらず、男性、女性、またはその他であるという個人の内的で深く感じられる感覚を意味します。誰もがジェンダー・アイデンティティを持っています。

「ジェンダー不適合」とは、出生時に割り当てられた性別に通常関連付けられるものとは異なる性別またはジェンダー表現を表示することを意味します。人のジェンダー表現は、女性と男性がどのように見えるか、または行動するかについてのステレオタイプの期待とは異なる場合があります。ジェンダー不適合はトランスジェンダーと同義ではありません。すべてのジェンダー不適合の学生がトランスジェンダーであると認識しているわけではありません。

「性別」とは、個人を男性または女性として分類するために使用される染色体、ホルモン、および解剖学的特徴を意味します。

「トランスジェンダー」とは、性自認が生まれたときに割り当てられた性別と異なる人を意味します。「トランスジェンダー」は「ゲイ」と同じではありません。

「性別移行」とは、トランスジェンダーの人が、その人が認識している性別として生活を始めるプロセスを意味し、多くの場合、服装のスタイルの変更、新しい名前の選択、人々が正しい代名詞を使用するようにという要求、そしておそらくホルモン療法と手術が含まれます。

背景

最近、より多くの生徒が、自分のトランスジェンダーのアイデンティティを表現し、学校で支援を求めることに抵抗を感じなくなりました。さらに、ますます多くの親が、トランスジェンダーの子供たちのニーズを認識して対応するよう学校に求めています。多くの学生にとって、学校は本物の表現のための安全な場所と見なされています。したがって、トランスジェンダーであると認識している生徒とそうでない生徒の両方に、何が最も適しているかを判断することが重要です。

トランスジェンダーの学生の問題が教育界の最前線に移動し、ハワイを含む多くの管轄区域がトランスジェンダーの学生をサポートするための指導書を実装していますが、これらの学生は依然として多くの障害に直面していることを覚えておくことが重要です。ゲイ、レズビアン、ストレート教育ネットワーク (「GLSEN」) は、ゲイ、レズビアン、バイセクシュアル、およびトランスジェンダーの学生の教育経験に焦点を当てた、2年に1度の全国学校環境調査を実施しています。GLSENの2013年の全米学校気候調査では、学校でLGBT関連の差別を経験したLGBTの生徒は、彼らの仲間より過去1か月間に学校を欠席する可能性が3倍高く、同級生よりもGPAが低く、自尊心が低く、うつ病のレベルが高いことがわかりました。¹ トランスジェンダーの学生に特有の差別の例には、呼ばれたい名前や代名詞の使用を禁止されたり、出生時に割り当てられた性別のトイレ/更衣室を使用するように要求されたりすることが含まれますが、これらに限定されません。²

学校は、生徒の幸福度の向上に重要な役割を果たしており、すべての生徒とその家族と協力し続けることが重要です。

¹ Kosciw, J. G. Greytak, E. A., Palmer, N. A., & Bosen, M. J. (2014). *The 2013 National School Climate Survey: The experiences of lesbian, gay, bisexual and transgender youth in our nation's schools*. New York: GLSEN, at 41.

² *Id.* at 37-40

連邦法および州法、教育委員会の方針

トランスジェンダーの学生に対するサポートと配慮に関する法的原則は、まだ解決されていません。 ハワイ州は、連邦法に従い、性自認と性表現に基づく個人に対する差別を含め、差別を禁止しています。 私たちは引き続き現在の法的進展を追跡し、適切に局の指導書を改訂します。

性別、性自認、および/またはジェンダー表現に基づく差別に対処する連邦法および州法には、次のようなものがあります。

- **1972 年の教育改正法のタイトル IX** は、連邦政府の財政支援を受けている教育プログラムまたは活動の下で、性別に基づく差別と嫌がらせを禁止しています。 これには、個人の性別のステレオタイプの特徴として認識されるものを示すことに基づく差別、または男性性と女性性のステレオタイプの概念に従わないことに基づく差別が含まれます。
- **1964 年の公民権法タイトル IV** は公立学校や大学での性に基づく差別や嫌がらせを禁止しています。 これには、伝統的な性別固定観念への適合の欠如に基づく差別が含まれます。

タイトル IX およびタイトル IV の下で、トランスジェンダーの学生および性のステレオタイプに従わない学生を含むすべての学生は、性別に基づく差別から保護されます。

- **州法 (§ § 368-1、489-2、および 489-3、ハワイ改正法)** は、公共の宿泊施設、雇用、住宅、および州の財政支援を受けるサービスへのアクセスにおける性自認または表現に基づく差別から個人を保護します。
- **ハワイ管理規則の第 19 章タイトル 8** には、性自認やジェンダー表現などの理由により、他の人に不快感、圧力、脅迫、または危険を感じさせる口頭または非口頭表現を行うことの禁止が含まれています。

さらに、ハワイ教育省の使命は、すべての子供の学業成績、性格、および社会的および感情的な幸福を開発することです。 国家は、すべての学生がアイデンティティーを発達させるのを支援する必要があります。 教育委員会のいくつかの方針がこの使命をサポートしています。

- **方針 E-3、Na Hopena A ‘o:** 「DOE は、より広いコミュニティのすべての人を含むシステムとして協力して、帰属意識、責任感、卓越性、アロハ、完全な幸福、ハワイを強化する能力を開発します。」
- **方針 101.1、生徒の行動規範:** 「生徒は正直で、尊厳を持って行動し、敬意と礼儀をもって他の人に接することが期待されています。 個人の行動が他者の権利を侵害してはなりません。 これには、適切な言語、行動、服装の使用が含まれます。 学生は、いかなる手段によっても他人に嫌がらせをしないことが期待されています。」
- **方針 101.6、包括的な学生サポートシステム:** 「BOE は、安全で、前向きで、思いやりがあり、支援的な学習環境で効果的な指導を提供することの重要性を認識しています… DOE は、一連のサービスを通じて […] 適切な学生サポートの忠実度を備えた、

実装をサポートする包括的な学生サポート システム フレームワークを提供するものとします。」

- **方針 106.5、学生に焦点を当てる:** 「ハワイの公立学校の教育プログラムは、各生徒の成長と発達に焦点を当てるものとします。」
- **方針 305.10、ハラスメント防止、いじめ防止、従業員による学生に対する差別防止:** 「DOE は、性同一性と表現、社会経済的地位、身体的外見と特徴、性的指向に基づくあらゆる形態のハラスメントおよび/またはいじめを固く禁じています。」 「学生は、DOE のプログラム、サービス、または活動の下で、参加を排除されたり、その利益を拒否されたり、嫌がらせ、いじめ、差別を受けたりしてはなりません。」

学生のプライバシー権に対処する連邦および州の法律と BOE の方針には、次のようなものがあります。

- **家族の教育権利とプライバシー法 (Family Educational Rights and Privacy Act (FERPA))** は、学生の教育記録のプライバシーを保護します。 FERPA の下では、学校は、生徒の教育記録の情報を親/法定後見人以外に公開する前に、事前に書面による同意を得る必要があります。
- **ハワイ管理規則の第 6 章タイトル 8、**は、生徒の記録を含む個人記録の機密性を規定しています。
- **ハワイ管理規則の第 34 章タイトル 8、**は、生徒と保護者の教育上の権利とプライバシーの保護を定めています。
- **BOE 方針 500.21、生徒の情報と機密記録:** 「個々の生徒または公立学校の元生徒に関する情報は、個々の生徒、親、または保護者によって許可された場合、教育省によって許可された場合、または教育省によって法で指定された場合を除き、教育省の職員によって漏えいまたは公開されてはなりません。 「機密」と指定された報告書には、親密で個人的な性質の情報が含まれており、職業倫理に従って保護および尊重されるものとします。 このような報告書は、一般にアクセス可能なファイルに配置してはなりません。 [...] すべての公立学校は、教育省または法律で義務付けられているように、生徒の永久記録の個別ファイルを保持するものとします。」

指導

学校は、すべての生徒を大切にし、尊重し、子供全体の発達をサポートする学習環境の構築に向けて努力する必要があります。発生する可能性のある一般的なニーズと状況に対する指導を以下に説明します。

学生の性自認の決定

学校は、生徒が誠実に保持している性自認を受け入れる必要があります。学生は、自分の性同一性が認識され、尊重されるために、医学的または精神的健康の診断または治療のしきい値を必要としません。

社会的に移行する準備ができているトランスジェンダーの学生は、学生が医学的移行を受けているかどうかに関係なく、学生の呼び方（優先する名前、優先する代名詞）、服装、および優先する活動や施設へのアクセスを変更するプロセスを開始できます。

学生の状況はそれぞれ異なるため、このプロセスは、学生と管理者、カウンセラーとのミーティングから始めて、学生が要求しているサポートの種類について話し合う必要があります。この最初のミーティングで、カウンセラーまたは管理者は、生徒の両親が生徒の性自認をどの程度知っているかを発見するよう努めるべきです。最初のミーティングには、個々の状況とミーティングがどのように開始されたかによって、学生の両親が含まれる場合と含まれない場合があります。生徒がトランスジェンダーであることを両親にまだ話していないにもかかわらず、支援を求める場合があります。これらの例は、小学校レベルよりも中学校および高等学校レベルでより一般的である可能性があります。

学校は、各生徒の統合を最適化するためにサポートをカスタマイズする必要があり、サポートは文書化する必要があります。学生と学校の両方が、合意されたサポートを説明する文書に署名する必要があります。学校は、合意されたサポートについてすべての当事者間で確立された理解の文書として、添付の性自認のための学生支援計画（添付 A）を使用することをお勧めします。

計画が確立されたら、カウンセラーまたは管理者は、適切な学校関係者（合意されたサポートに応じて）をフォローアップして、学生の主張された性同一性と合意されたサポートを伝えます。生徒のアイデンティティが発達するにつれて、適切なサポートが変わる可能性があります。学生または親/保護者は、カウンセラーまたは学校管理者とのミーティングを開始して、特に性分離施設に関連する要求されたサポートが変更によって影響を受ける場合に、サポート計画を変更することができます。カウンセラーまたは管理者は、必要に応じて計画を再検討し、学生（および関与している場合は親）と一緒に、継続的な適切性を確認する必要があります。トランスジェンダーの学生への支援は一貫して適用されるべきです。

例 1：男性のように見える学生が、スカートやドレスなど、伝統的に女性と見なされている服装をしているのが一貫して見られます。学生は男性専用の施設を定期的にご利用しており、それ以外のことを要求したことはありません。学生は、伝統的に男性の名前である学生の本名を引き続き使用します。この場合、何もする必要はないかもしれません。この学生はジェンダー不適合であるように見え、トランスジェンダーであると認識している場合とそうでない場合があ

ります。生徒がいじめや嫌がらせを受けている場合は、カウンセラーまたはその他の適切な学校関係者が介入し、いじめや嫌がらせに対処するためのサポートを提供する必要があります。

例2：学生と親が校長との面会を希望します。学生は、学生の性同一性に関する医療専門家からの文書を持っています。この例は、はるかに簡単です。繰り返しになりますが、この会議またはその後の会議を使用して、トランスジェンダーの学生の性同一性に関する学生支援計画を立てることができます。その後、カウンセラーまたは学校管理者は、適切な学校関係者にフォローアップして、生徒の性同一性と合意された支援について通知する必要があります。

例3：女性のように見える学生が教師に近づき、男性の名前を付け、男性の代名詞を使用して紹介されるように要求します。教師は、生徒の呼ばれたい名前と代名詞を使用することに同意し、要求に応じて、サポートと宿泊施設に関して学校が生徒と協力することを生徒に通知する必要があります。

男女別施設へのアクセス

生徒がプライバシーを強化したい、または危険を感じている場合、学校は生徒に代替の宿泊施設への合理的なアクセスを提供する必要があります。これには、トイレと更衣室が含まれます。

トイレのアクセシビリティ

学校は、男子生徒と女子生徒用に別々のトイレ設備を維持することができます。学生は、誠実に保持している性同一性に対応するトイレを利用できる必要があります。

トランスジェンダーの学生のサポートに、誠実に保持されている性同一性に対応するトイレへのアクセスが含まれる場合、他の学生のために配慮が必要になる場合があります。この場合、トランスジェンダーであろうとなかろうと、生徒がプライバシーの強化を望んでいる、または不快に感じている場合、学校はその生徒に代替のトイレ（例：個室のトイレまたは保健所のトイレ）への合理的なアクセスを提供するためにあらゆる努力を払う必要があります。トランスジェンダーの学生は、使用するトイレを決定する必要があります。トランスジェンダーの学生は、代替トイレの使用を強要されるべきではありません。学校は、キャンパス内に「性別に中立な」トイレを1つだけ指定する措置を講じることができます。

例1：トランスジェンダーの男性（女性から男性）の学生が、キャンパス内の男子トイレを使用したいと考えています。これは彼が誠実に保持している性同一性と一致するため、男性用トイレの使用を許可する必要があります。

例2：トランスジェンダーの女性（男性から女性へ）が女子トイレを使用しているため、非トランスジェンダーの女子学生は不快です。トランスジェンダーではない女子生徒は、別のトイレを使用できるようにする必要があります。

例3：トランスジェンダーの女性（男性から女性へ）は、女子トイレを使用することに不快感を覚えますが、危険を感じて男子トイレを使用したくありません。上記の例のように、生徒は別のトイレを使用できるようにする必要があります。

例4：男性と思われる学生が女子トイレに入ってきました。学校関係者からアプローチされたとき、学生は、誠実に保持している性自認が女性であることを示します。学生は、学生が自認する性別のトイレを使用することを許可されるべきです。要請に応じて、学校がサポートと宿泊施設に関して学生と協力することを学生に通知します。

更衣室のアクセシビリティ

学校は、男子生徒と女子生徒用に別々の更衣室設備を維持している場合があります。学生は、誠実に保持している性同一性に対応する更衣室施設にアクセスできる必要があります。

トランスジェンダーの学生のサポートに、誠実に保持されている性同一性に対応する更衣室へのアクセスが含まれる場合、彼らまたは他の学生のために用意された宿泊施設が必要になる場合があります。トランスジェンダーであろうとなかろうと、生徒がプライバシーの強化を望む場合、根本的な理由に関係なく、学校は次のような合理的な代替手段へのアクセスを提供する必要があります。

- (1) コーチのオフィスまたは協力的な仲間グループの近くにある学生用ロッカーの割り当て。
- (2) 更衣室施設の公衆エリア内のプライベートエリアの使用
- (3) 近隣のプライベートエリアの利用、または
- (4) 別の着替えスケジュール。

例1：トランスジェンダーの男性(女性から男性へ)が、男子更衣室で着替えたいと思っています。生徒が安全だと感じている限り、男子更衣室での着替えを許可する必要があります。

例2：トランスジェンダーの男性(女性から男性へ)は、男子更衣室で着替えるのは気が進みませんが、女子更衣室で着替えるのは自分が男性であることを認識しており、不適切だと感じているため、着替えたくないと思っています。学校は、指導書に記載されている代替案のいずれか、または別の類似の代替案を使用して、生徒に対応するように努める必要があります。

例3：トランスジェンダーの女性(男性から女性へ)が、女子更衣室で着替えることにしました。トランスジェンダーではない女子学生の何人かは、この状況に不快感を覚えています。非トランスジェンダーの女子生徒には、この指導書に記載されている代替案の1つ、または他の同様の代替案を提供する必要があります。

一泊旅行と住居(寄宿学校)

学校は、トランスジェンダーの生徒が、その生徒が誠実に保持している性同一性と一致する宿泊施設にアクセスできるようにしなければなりません。学校は、トランスジェンダーの生徒に、一人部屋の宿泊施設に滞在すること、または他の生徒に要求されていない場合に個人情報を開示することを要求することはできません。ただし、学校は、学生が選択した場合、学生の自発的な一人部屋の宿泊施設の要求を尊重することを禁止されていません。

好ましい名前と代名詞

トランスジェンダーの学生は、誠実に保持している性同一性に対応する名前と代名詞で呼ばれる権利を持っています。学生から要求された場合、スタッフは、誠実に保持されている性自認のそれぞれに対応する名前と代名詞で学生に対処する必要があります。トランスジェンダーの学生は、正式な名前や性別の変更を取得したり、公式記録を変更したりする必要はありません。これは、不注意による過ちや正直な過ちを禁止するものではありませんが、学生の性自認を尊重することを意図的または継続的に拒否することには適用されます。これは差別行為と見なされるべきです。

教師やその他の学校職員は、生徒名簿に記載されている生徒の呼ばれたい名前と、生徒に話しかける際に使用する代名詞について通知する必要があります。DOEの学生情報システム(例：SISなど)が「希望する名前」に対応している場合、学生の希望する名前に注意する必要があります。教師やその他の学校職員は、トランスジェンダーの生徒の正式な名前が、生徒の希望する名前と異なる場合、秘密が守られるように注意する必要があります。

例：学生が教師にアプローチし、学生の出生時に割り当てられた性別は男性として記載され、正式な名前は伝統的に男性であるにもかかわらず女性の名前を付けて、女性の代名詞を使用して紹介されることを要求します。教師は、生徒の呼ばれたい名前と代名詞を使用することに同意し、生徒がカウンセラーまたは管理者とのミーティングを設定するのを支援する必要があります。この最初のミーティングで、カウンセラーまたは管理者は、学生の両親が学生の性自認をどの程度認識しているかを明らかにするよう努めるべきです。性自認に関する学生支援計画は、フォローアップ会議で確立する必要があります。その後、カウンセラーまたは管理者は、教師およびその他の適切な学校関係者にフォローアップして、合意したサポートについて通知する必要があります。

記録、プライバシー、機密保持

現時点では、学校は、標準化されたテストと公式レポートで、学生の正式な名前と出生時に割り当てられた性別を使用する必要があります。学校の職員は、トランスジェンダーの生徒の性自認と呼ばれたい名前が公式の記録と一致しない可能性があることに注意し、生徒の正式な名前と出生時に割り当てられた性別を不注意で開示することを可能な限り避けることにより、生徒のプライバシーを保護する必要があります。

トランスジェンダーの学生の法的アイデンティティ、トランスジェンダーの性同一性、および出生時に割り当てられた性別に関する情報は、機密情報として扱われるべきです。そのような情報を他の学生、その保護者、またはその他の第三者に開示すると、FERPAなどのプライバシー法に違反する可能性があります。トランスジェンダーの学生のステータスを明らかにする可能性のある情報は、法的に要求されている場合、または学生がそのような開示を許可していない限り、他人に開示しないでください。生徒に関して提供された記録または名簿情報が法的な記録ではない場合、または学校が生徒の正式な名前または性別を使用することが法的に義務付けられていない場合、学校は生徒が要求した名前、代名詞、および性別マーカーを使用する必要があります。

例1：トランスジェンダーの男性(女性から男性)には、女性の正式名と男性の呼ばれたい名前があります。授業の初日に、教師はすべての生徒の名前をカードに書き、机の上に置きます。生徒は先生にアプローチし、呼ばれたい名前を机の上に置いてほしいと説明します。教師は、生徒の希望する名前で新しいカードを作成する必要があります。教師は、カウンセラーまたは管理者とのミーティングを設定して、生徒をさらに支援する必要があります。この最初のミーティングで、カウンセラーまたは管理者は、学生の両親が学生の性自認をどの程度認識しているかを明らかにするよう努めるべきです。性自認に関する学生支援計画は、フォローアップ会議で確立する必要があります。その後、カウンセラーまたは管理者は、教師およびその他の適切な学校関係者にフォローアップして、合意したサポートについて通知する必要があります。

例2：標準化されたテスト冊子を配布するために、教師はテスト冊子に印刷されている各生徒の本名を読み上げますが、トランスジェンダーの生徒は生徒の呼ばれたい名前と代名詞を教師にすでに主張しています。教師は生徒が別の名前を通っていることを知っているため、性自認のための生徒支援計画が確立されているかどうかに関係なく、教師は生徒の希望する名前で生徒を呼び、生徒の本名を秘密にしておく必要があります。

非公式記録の例: クラスのリスト、学生証、卒業アルバム、クラブの名簿と書類、学生の作品、卒業プログラム。

体育

トランスジェンダーの学生が体育に参加する機会を否定されるべきではありません。学生は、誠実に保持されている性同一性に従って、性別で分けられたレクリエーションのジムクラスの活動やスポーツに参加することを許可されるべきです。

例1：トランスジェンダーの女性(男性から女性へ)は、体育のボールルームのセクションで女子のパートを踊りたがっています。学生は女子のパートを踊ることを許可されるべきです。

例2：サッカーの体育ユニットでは、教師はクラスを男女別にゲームごとに分けます。トランスジェンダーではない女子が、男子のチームでプレーしたいと考えています。生徒は男子チームでプレーすることを許可されるべきです。

競争のある陸上競技

この問題について、同省は協議中です。ご不明な点がございましたら、タイトル IX 専門家のニコル・イサ・イイジマ(電話番号: 808-784-6325)または Lotus Notes までお問い合わせください。

服装規定

すべての生徒は、学校の服装規定に違反しない限り、伝統的な性別のステレオタイプに適合するかどうかに関係なく、自分で選んだ服装を着用することを許可されるべきです。服装規定は性別中立であるべきです。生徒は、性自認とジェンダー表現に応じた服装をすることができま

す。学校の職員は、トランスジェンダーや性別不適合の生徒に対して、学校の服装規定をより厳密に強制するべきではありません。これは、学校だけでなく、学校の共同活動や課外活動での服装にも当てはまります。

例 1：男性と思われる生徒がドレス姿で登校します。服装が学校の服装規定に違反しない限り、生徒は着替える必要はありません。

例 2：男性に見える学生がチアリーディングチームに受け入れられ、女子のチアリーディングユニフォームを着たいと思っています。学生がトランスジェンダーであるかどうかに関係なく、学生は自分で選んだ制服を着ることが許されるべきです。これは、学生が女子トイレや更衣室にもアクセスできる必要があることを必ずしも意味するものではありません。ジェンダー不適合の学生は、トランスジェンダーではないかもしれません。生徒の性自認をよりよく理解するために生徒と面談することは、次の良いステップになるでしょう。

例 3：女性と思われる生徒が、生徒の下着が露出するブカブカのジーンズを履いているのを教職員が見ています。これは服装規定に違反する可能性があるため、性別に関係なく、学生は服装規定に違反したとして罰せられる可能性があります。

例 4：タンクトップ姿の男子生徒が登校します。学校の服装規定では、タンクトップは男子には不適切であると見なされていますが、ストラップが十分に太い限り、女子には受け入れられます。学生のタンクトップのストラップは、女性と思われる学生が着用しても不適切とは見なされません。この場合、生徒はタンクトップの着用を許可されるべきであり、学校は服装規定を性別中立に向けて修正する必要があります。

その他の性別に基づく活動

学生は、性別に基づく活動に参加することを許可され、誠実に保持されている性同一性と一致する規則、方針、または慣行に従う必要があります。

例 1：トランスジェンダーの女性(男性から女性へ)の学生が、プロムクイーンに立候補したいと考えています。生徒はプロムクイーンに立候補することを許可されるべきであり、出生時に割り当てられた性別を理由にプロムキングに立候補することを強いられるべきではありません。

例 2：学生はペプラーリー中にすべてのジュニア向けのクラスパフォーマンスを組織しました。パフォーマンスには、性別に基づいてさまざまな役割を演じるさまざまなグループがあります。トランスジェンダーの生徒は、自分が属する性別グループに参加することを許可されるべきです。例：トランスジェンダーの女性(男性から女性)は女の子のグループに参加できるようにし、トランスジェンダーの男性(女性から男性)は男の子のグループに参加できるようにする必要があります。

例 3：トランスジェンダーの女性(男性から女性へ)が、キャンパス内のエリート合唱グループである Women's Ensemble のオーディションを受けたいと考えています。アドバイザー/教師は、学生がオーディションを受けることを許可する必要があり、他の女子学生より多かれ少なかれ批判的に学生を評価するべきではありません。

例4：トランスジェンダーの女性（男性から女性へ）が、女子学生集団に関連する卒業衣装の色を着用したいと要求します。学生は、女性に関連する卒業式の服装を着用することを許可されるべきです。

学校コミュニティ

2016～17 学年度から、学校は次のことを行う必要があります。

1. 両親/保護者を含むすべての生徒に、トランスジェンダーの生徒がサポートを要求する権利があることを通知する年次通知を送信します。通知には、プライバシーに関する懸念がある生徒には学校に連絡するよう指示する文言も含める必要があります。この年次通知は、
(a) トランスジェンダーの学生とその家族に、その権利とそのような支援を開始する方法と、
(b) トランスジェンダーではない学生とその家族が、トランスジェンダーの学生のためにそのようなサポートを提供することについての通知として機能します。

年次通知は、各学年の初めに送付する必要があります。トランスジェンダーの学生がサポートのリクエストを開始したときのみ通知を送信するのを待つと、そのような学生を不注意に特定する効果があり、トランスジェンダーの学生のプライバシーが侵害される可能性があります。

年次通知のサンプル言語については、添付 B を参照してください。

2. 学校コミュニティに知らせるために、ハンドブックに次のステートメントを含めます。

トランスジェンダーの学生は、名前、代名詞、性別の表現、施設の使用、性差別活動への参加など、自分の性自認のサポートについて質問や懸念がある場合は、カウンセラーに相談する必要があります。

学校がトランスジェンダーの学生のためのサポートを開発し、採用し始めると、教職員、スタッフ、学生、および保護者のための調整期間が設けられます。学校は、カウンセラーや管理者一を利用して、生徒が抱えている可能性のある懸念について話し合うことができるようにし、個々のトランスジェンダー生徒のプライバシーと機密性を保護しながら、教育に向けて学校コミュニティとして働き、これらのガイドラインの理由の認識を高める必要があります。

質問がある場合、または追加情報が必要な場合、追加のケースバイケースの検討が必要な状況を特定する場合は、公民権コンプライアンス オフィスの所長代理である ベス・シメルフェニツヒまたはタイトル IX 専門家であるニコル・イサ・イイジマ（電話番号：808-784-6325）までお問い合わせください。

12ページ

リソース

ゲイ、レズビアン、ストレート エデュケーション ネットワーク (GLSEN)、
<http://www.glsen.org>

ジェンダースペクトラム、<https://www.genderspectrum.org>

米国教育省、公民権局、
http://www2.ed.gov/about/offices/list/ocr/docs/tix_dis.html

米国教育省、公民権局、2010年10月26日付「親愛なる同僚への手紙」
<http://www2.ed.gov/about/offices/list/ocr/letters/colleague-201010.html>

ハワイ州教育委員会方針 #305.10 (fka 教育委員会方針
#4211) <http://www.hawaiiboer.net/policies/4200series/Pages/4211.aspx>